

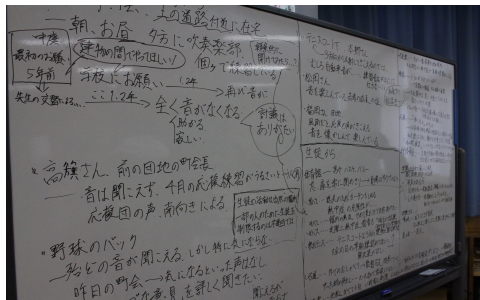


# 「学校と音について意見交換会」

## 報告書

第1回  
「学校と音について」  
意見交換会  
平成28年 11月20日

第2回  
「学校と音について」  
意見交換会  
平成29年 3月19日



「学校と音について」意見交換会  
実行委員会 委員長 柳原真由

平成29年4月4日作成



# 「学校と音について意見交換会」 報告書

## 目 次

|                             |   |
|-----------------------------|---|
| 1, きっかけと背景                  | 1 |
| 2, 音の問題に焦点を当てた理由            | 2 |
| 3, 意見交換会という方法で実態を調査しようとした理由 | 2 |
| 4, 第1回意見交換会までの取り組み          | 2 |
| 直接訪問でいただいたご意見               | 4 |
| 5, 第1回意見交換会 実施内容            | 5 |
| 6, 第1回意見交換会後の取り組み           | 5 |
| 7, 第2回意見交換会開催に至った理由         | 6 |
| 8, 第2回意見交換会までの取り組み          | 6 |
| アンケートに記述されたご意見              | 7 |
| 9, 第2回意見交換会実施内容             | 8 |
| 10, 2回の意見交換会の成果と課題          | 9 |

# 「学校と音について意見交換会」報告書

平成28年11月、平成29年3月の二度にわたり、松本深志高校周辺地域にお住いの地域の方と生徒で「深志高校から出る音」について意見交換会を行いました。意見交換会を開催したきっかけから平成29年4月現在の到達点までを報告書としてまとめました。

## 1. きっかけと背景

### (ア) きっかけ

実行委員長を務めることになった私(柳原)自身は、應援團管理委員会に所属しており、教務室に「應援團の声がうるさい」という内容のクレームが来ていることを顧問の先生にうかがった。地域の方から要望を受け、應援團管理委員会では声出しを行う場所を変えることにした。「なぜ地域の方に私たちの活動を理解してもらえないのか」と疑問に思い、活動が制限されてしまう現状をなんとかしたいと考えていた。

### (イ) 背景

- 平成28年4月、千葉県市川市で、騒音を理由とした周辺住民の反対により、保育園の建設が中止された。
- 松本市内では、2校の事例がある。
- 松本県ヶ丘高校では、平成20年頃から特定の方から文化祭時の花火、音、ほこり、体育館問題等に関してクレームを受けていた。平成23・24年度にはエスカレートし、頻繁に来校され苦情を伝えられた。平成25年度からは火薬の量や打ち上げる方向について配慮していたが、この年から苦情は町会長のとことに寄せられるようになり、副町会長から苦情と、それに対する配慮についての通知を直接聞いていないという抗議が寄せられた。担当が直接会って理解を得たが、平成26年度の文化祭時、花火師のサービスで火薬量が多く、かつクレームを寄せているお宅の方角に通常より多くの燃えかすが落ちた。数日の間には特別な苦情もなく、生徒会係は胸をなで下ろしていた。ところが1週間後、学校隣接の町内会で臨時の会合が持たれ、度重なる要請にも改善がみられないので「文化祭時の打ち上げ花火禁止に関わる誓願要請決議」が行われた旨を町会長が来校して伝えた。その後、生徒会、職員会で協議したが、文化祭での打ち上げ花火を中止せざるを得ないという結論となった。特定の方の苦情と認識していたが、その他の方も同様の感情があることを学校が捉えられなかったのが原因と担当の先生は分析されていた。
- 松本蟻ヶ崎高校では、学校に隣接したお宅からの要望を受け、住宅に面した北側の窓に内側から板をはめ込み消音対策をしている。音に対しては納得頂けなかったが、板張りの対応を直接見せ、説明しこれ以上対策ができない旨を伝え納得して頂いた。

## (ウ) 本校の現状

地域からどんな苦情が来ているのか、平成28年10月、教頭の宮川安司先生にお話を伺った。内容は次のようなものだった。

- (a) 地域からのクレームは学校から出る音、自転車等の交通マナー、普段の生徒の生活態度、保護者の送迎車の駐車について等、多くの分野にわたっている。
- (b) クレームは少なくとも10年以上前から学校に寄せられている。
- (c) この数年間でクレームの数は増えている。
- (d) 平成28年10月段階で、\_\_件のクレームが来ている。一年間では、約\_\_件となる。
- (e) 自転車に関するクレームは特に多く、改善に対し強い要望が寄せられている。
- (f) 音に関するクレームは、男女バレーボール・バスケットボール部、ソフトテニス部、弓道部、吹奏楽部、軽音楽部、応援団管理委員会に対するものがある。

## 2、音の問題に焦点を当てた理由

以上のような実態について更に詳しく知りたいと考えた。しかし、すべての要望・問題に対応した調査は難しいと考え、「音の問題」に焦点を当てることにした。理由は以下の通り。

- (a) クレームを頂いたことのある部活動、委員会は消音対策・努力をしている。その結果、活動環境や活動時間の制限が大きく、活動に困難が生じているため。
- (b) 生徒の消音対策や努力が、既に限界に達しているため。
- (c) 音に関してのクレームは、どこからくるのか、どんな音についてのクレームかがはっきりしており、展望が予測でき分析しやすかったため。
- (d) 前述(1、(イ))のような社会的背景があるため。
- (e) 地域の中でも音が届く範囲を限定でき、調査・対応が比較的容易と考えたため。

## 3、意見交換会という方法で実態を調査しようとした理由

実態を調べるためには地域の方と対面し意見を交換する場が必要だと考えた。私が知りたかったことは以下の3点である。

- (a) 「深志高校から出る音」をうるさいと思っているのは実際にはどのくらいの人か。
- (b) また、その他の一般の人は「深志高校から出る音」をどう思っているのか。
- (c) 実際には、どんな音に対してどの程度の不快感を持っているのか。

また、意見交換会という集会にすることで、要望(クレーム)を伝えてくる皆さんの実際の意向、地域での立ち位置、この問題解決のための考え方等を明らかにしたいと考えた。懸念材料はいくつもあった。まず、会議に多くの方が集まった場合は、音の問題はかなり深刻な問題であり、至急学校として何らかの対応をする必要がある。しかし、参加者が少なかった場合は、要望のある方だけを丁寧にケアしていくことで、問題解決が可能であると推測した。音は、感覚的な認識であり、もっと他の問題が地域と深志高校の間にあるかもしれない。このようなことが、集会を企画する活動(調査・直接訪問など)によって明らかになると考えた。

## 4、第1回意見交換会までの取り組み

### I 意見交換会を開くまでの取り組み(時系列)



|         |   |
|---------|---|
| 10月 14日 | ・ 校長先生、教頭先生に開催について相談・検討（顧問）                               |
| 26日     | ・ 職員会で、意見交換会開催について提案                                      |
| 28日     | ・ 4地区の自治会長への実施の提案・相談                                      |
| 11月 1日  | ・ 実行委員長、生徒会長、合同協議会長、新聞委員長で実行委員会について打ち合わせ                  |
| 2日      | ・ 第1回意見交換会実行委員会（実行委員会発足）                                  |
| 3日      | ・ 配布資料（意見交換会の日程についてのお知らせ）作成                               |
| 7日      | ・ 配付資料 教頭先生に確認  |
| 9日      | ・ 第2回意見交換会実行委員会 近隣140軒に直接訪問する旨をチラシにしポスト投函                 |
| 11日     | ・ 第3回意見交換会実行委員会（直接訪問の打ち合わせ）<br>・ 近隣140軒への直接訪問（開催説明とチラシ配布） |
| 14～18日  | ・ 当日配布資料作成・印刷   |
| 19日     | ・ 第4回意見交換会実行委員会（会の進行についてリハーサルを行う）                         |
| 20日     | <b>第1回「学校と音について意見交換会」 当日</b>                              |

## （ア） 学校との合意形成について

意見交換会の開催を実現するため、まず、先生方に理解していただいた。

始めに、私の所属する放送委員会制作班顧問の林直哉先生から、校長先生、教頭先生に意見交換会開催の理由（前出2、3）を説明し実現の方向について相談していただいた。この際懸念されたのは以下の3点。

- (a) 要望（クレーム）を寄せる人が、このことで地域から疎外されないか。
- (b) この取り組みをきっかけに、今まで音を気にしていなかった人も意識するようになってしまうのではないか。また、他の問題に拡大しないか。
- (c) 強い要望を持つ住民が多数参加し収拾がつかなくなってしまうのではないか。

これらの点については、「音の問題」に限定すること、学校が前面に出る公式イベントではなく、生徒が主体となり実施する（トライアルな）行事として実施し、どのような状況を生み出すか知見を得るイベントとすることでこの場は合意した。その後、職員会に提案し先生方の合意をいただき計画は進んでいった。

職員会では、問題点を聞くのであれば、このような集会形式ではなく直接訪問する方がいいのではないか、多くの人が来たらどうするのか、等のご意見をいただきましたが、基本的には了解していただきました。（顧問 林）

## （イ） 組織について

「音を出す団体」（実際にクレームを受けたことのある部活動、委員会）の責任者、生徒会長、合同協議会長、新聞委員長をメンバーとした意見交換会の実行委員会を立ち上げた。主管は放送委員会制作班とし、実行委員長は柳原が務めた。実行委員長、生徒会長、合同協議会長、新聞委員長の4人が中心となり事前に話し合って原案を作り、実行委員会を開いてその原案を討議する形で活動を進めた。顧問の先生は林直哉先生にお願いした。

## (ウ) 地域の協力体制依頼

松本深志高校周辺4地区の町会長に意見交換会への参加をお願いした。蟻ヶ崎北町会長の太田宗彦さん、蟻ヶ崎深志ヶ丘町会長の高簗基治さん、沢村町会長の曾根原力さんに協力を仰いだ。第1回意見交換会では、実行委員長の勘違いで松本深志高校に面した町会ではないと考えていたため、蟻ヶ崎東・西町会の会長にはお願いに行っていない。また、白金町会については、町会長の岩淵州宏さんより、「うちの町会にはクレームを言う人はいないので結構だ」とのご意見をいただき、協力は仰げなかった。

## (エ) 実行委員会の広報活動

意見交換会の開催を知らせるチラシ155部を、蟻ヶ崎北、蟻ヶ崎深志ヶ丘、沢村の3町会に回覧板を通じ配布していただいた。配布数は、蟻ヶ崎北 60部、蟻ヶ崎深志ヶ丘 30部、沢村 65部だった。

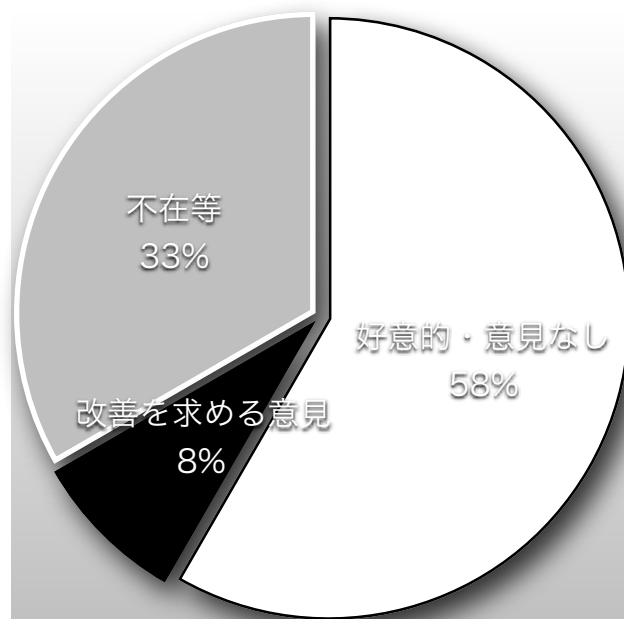
※ 沢村町会は深志高校隣接地域のみで65部。

実態調査のため、チラシを配布した訪問時に聞き取り調査を行った。そのため、松本深志高校隣接140軒に限り、実行委員が直接住民の皆さんに面接し、意見交換会の開催を知らせた。訪問による質問事項を用意しない聞き取り調査でお話をうかがった。お話をうかがうことができたのは80軒。「深志高校から出る音」に好意的で「特に意見なし」という声がほとんどであり、音に対する改善を求める意見は全体のおよそ1割だった。

## 直接訪問でいただいたご意見

- ※ 吹奏楽部の練習で、休日の朝から吹いているのに、10:00くらいに聞こえなくなる。時間を考え直してほしい。
- ※ 吹奏楽部の音が、夏に窓を開けるとうるさくて寝てられない。
- ※ 軟式テニスの打音が夜勤明けだと、うるさくて眠れないことがある。
- ※ 深志高校はずっとあり、それを知った上で住んでいる。少しうるさいこともあるが、何もいうことはない。自分たちで考えて欲しい。
- ※ この企画はよい。高齢化などで町内組織はあまり動かない。生徒と顔見知りになって、フランクに話すことができるようになればよい。
- ※ 君達が思っている以上に、そばに住む人は学校があることで音が出るのを知っている。生徒に楽しんで欲しいからこそ意見を言う。
- ※ 「音」だけの問題というよりも、校外での生徒の「行動音」を我慢しているのに、それも我慢しなければならないのか、と思う。地域の中の学校という面で、全体的に取り組まなければならない問題だと思う。

本校に隣接するお宅140軒訪問聞き取り結果



## 5, 第1回意見交換会 実施内容

---

(ア) 日 時 平成28年11月20日 13時30分～15時30分

---

### (イ) 実行委員会参加団体

- ・生徒会本部 ・新聞委員会 ・放送委員会制作班 ・應援團管理委員会
  - ・合同協議会 (男女バレーボール・バスケットボール部/ソフトテニス部/弓道部/  
吹奏楽部/軽音楽部)
- 

### (ウ) 地域参加者

- ・ 太田宗彦さん (蟻ヶ崎北町会長)
- ・ 高簗基治さん (蟻ヶ崎深志ヶ丘町会長)
- ・ 曾根原力さん (沢村町会長)
- ・ 上原偉敏さん (蟻ヶ崎北)
- ・ 忠地和夫さん (蟻ヶ崎北)
- ・ 本郷章治さん (蟻ヶ崎北)
- ・ 窪田小弓さん (蟻ヶ崎北)
- ・ 松岡文子さん (蟻ヶ崎深志ヶ丘)

計8名

---

### (エ) 会議でいただいたご意見

- ✳ 5年ほど前は、吹奏楽部が個々に自主練習をしていてうるさかった。学校に何とかして欲しいと伝えたところ、一昨年くらいには吹奏楽部が廃部になったかと思うほど静かになった。
- ✳ テニスコートのボールの音が反響して聞こえるが、部活のレベルアップのためには仕方がない。
- ✳ 学校の近くに住んでいるのならある程度の音が聞こえるのは当然なので気にならない。
- ✳ 近くに学校があることは楽しい。練習の音を楽しんで聞いている。
- ✳ 應援團管理委員会の太鼓の消音対策を見て、太鼓が壊れたかと思った。音を気にして思い切り練習ができないのはかわいそう。生徒に同情した。
- ✳ 自分の名前を言わずに (匿名で) 学校に意見する人のことは気にしなくてもいいのではないか。
- ✳ 住民は、生徒や学校の対策や、どうして音が出るのかを知らない。生徒からコンタクトを取り、色々な人に学校の状況を知ってもらうべき。知れば理解してくれる人も増えるのではないか。
- ✳ 学校の近隣の人との笑いを交えた話し合いが必要。挨拶や世間話をすれば、生徒と良い付き合いができるのではないか。

## 6, 第1回意見交換会後の取り組み

- ・ 意見交換会の成果をまとめた報告書を配布。回覧板でも配布していただき、学校に隣接する140軒には面接してお渡しした。
- ・ 男女バレーボール部が松本深志高校を会場にした大会について自主的にお知らせした。
- ・ 新聞委員会が発行する「深志高校新聞」を蟻ヶ崎東・西町内を含めて215部回覧板を通じて配布した。
- ・ 学校に隣接する140軒のお宅に「深志高校から出る音」がどのように聞こえるかを調査するアンケートを実施した。



## 7, 第2回意見交換会開催に至った理由

- ・ 第1回意見交換会で「地域の皆さん」と関わり合い、お互いを知ることが非常に重要だとわかったから。
- ・ 第1回意見交換会に来られなかった方、より多くの方に参加していただきたいから。
- ・ 現在のような集会形式では意見の交換のみしかできず、具体的な申し合わせができない。少なくとも、このような会議の定例化か、地域と学校が話し合い合意できる場が必要だと考え、そのきっかけを作りたいから。

## 8, 第2回意見交換会までの取り組み

### I 意見交換会を開くまでの取り組み（時系列）

|      |  |
|------|--|
| 2月3日 | ・ 第1回意見交換会実行委員会（実行委員会 発足）  |
| 中旬   | ・ 蟻ヶ崎北、蟻ヶ崎深志ヶ丘、沢村、蟻ヶ崎東、蟻ヶ崎西地区の長会長に「第2回意見交換会」実施の提案・相談                     |
|      | ・ 配布資料（意見交換会の日程についてのお知らせ）作成  |
| 15日  | ・ 第2回意見交換会実行委員会 近隣140軒に直接訪問する旨をチラシにしポスト投函                                |
| 17日  | ・ 第3回意見交換会実行委員会（直接訪問の打ち合わせ）<br>・ 近隣140軒への直接訪問（意見交換会の開催説明と資料配布） / アンケート実施 |
| 下旬   | ・ 回覧板を通じ、意見交換会の開催を知らせる   |
| 3月上旬 | ・ 当日配布資料印刷   |
| 19日  | <b>第2回「学校と音について意見交換会」 当日</b>   |

#### （ア） 組織について

意見交換会の取り組みを通じ、新たに説明が必要な部活動、委員会があることがわかり、第1回のメンバーにとんぼ祭実行委員会・サッカー部・放送委員会・ダブルダッチ部を加え、新たに実行委員会を立ち上げた。

#### （イ） 地域の協力体制依頼

松本深志高校周辺5地区の町会長に参加のお願いをした。蟻ヶ崎北町会長の太田宗彦さん、蟻ヶ崎深志ヶ丘町会長の高簗基治さん、沢村町会長の曾根原力さん、新たに蟻ヶ崎西町会長の古市昭太郎さん、蟻ヶ崎東町会長の細萱史郎さんに協力していただいた。蟻ヶ崎東町会の細萱さんは、町会の会議のため当日は参加できないとのことだった。

#### （エ） 実行委員会の広報活動

意見交換会の開催を知らせるチラシ215部を、蟻ヶ崎北、蟻ヶ崎深志ヶ丘、沢村、蟻ヶ崎西、蟻ヶ崎東の5町会に、回覧板を通じて配布していただいた。配布数は、蟻ヶ崎北 60部、蟻ヶ崎深志ヶ丘 30部、沢村 65部、蟻ヶ崎西 30部、蟻ヶ崎東 30部である。

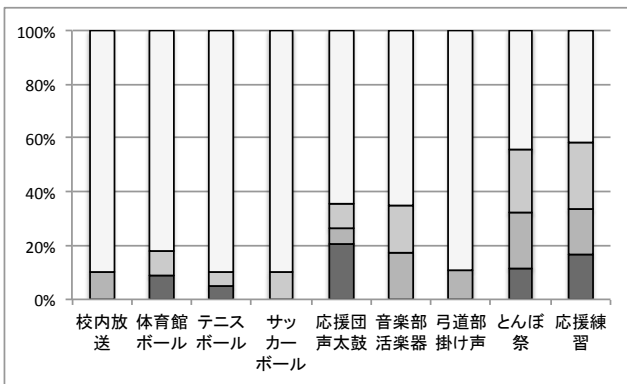
※ 沢村町会、蟻ヶ崎東・西町会は深志高校周辺地域のみの部数。

松本深志高校に隣接する140軒のお宅に限り、実行委員が直接お宅を訪問し、意見交換会の開催を知らせた。今回は、訪問時に質問事項を設定したアンケート用紙を準備し調査を行った。アンケートに回答いただいたのは66軒（後送分含む）だった。「松本深志高校から出る音」に好意的な回答が多く、特に意見なしという声がほとんどだが、細かく見ると改善の余地があることがわかった。アンケート結果は下記である。

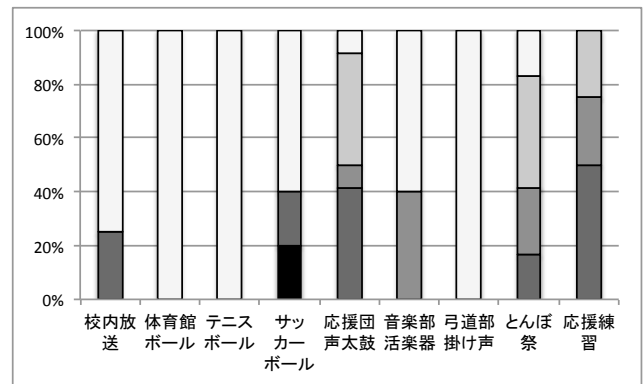
## アンケート

### 「松本深志高校から出る音はどのように聞こえるか」

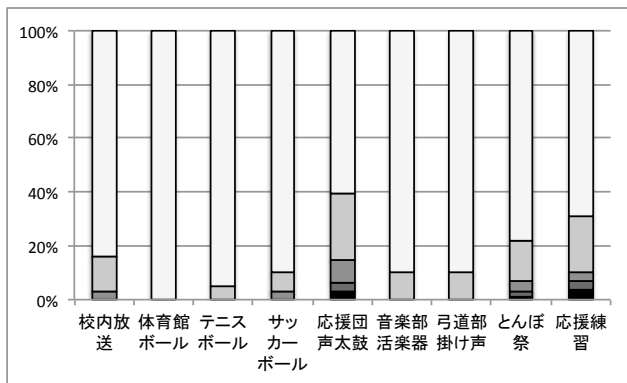
- ⑤ 全く気にならない
- ▨ ④ 聞こえるが気にならない
- ③ 聞こえる
- ② うるさいと感じることもある
- ① うるさくて我慢できない



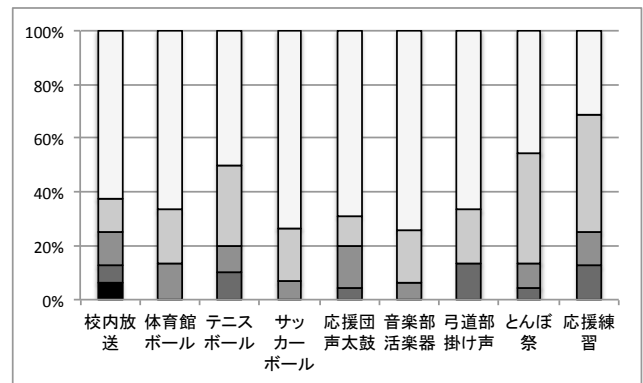
本校の東側（体育館・講堂側） 15件



本校の西側（グラウンド側） 6件



松本深志高校の南側（一棟校舎） 29件



松本深志高校の北側（テニスコート・弓道場側） 16件

## アンケートに記述されたご意見

- ✳ 特に朝、サッカー部の練習板にボールを蹴り込む音がうるさい。（西側）
- ✳ アンケートの項目にはないが、野球部の練習の音が気になる。（北側）

- ✳ 応援練習で声を出す方向を変えてはどうか。 (南側)
- ✳ 学校の音が聞こえるのは仕方がない。 (東側)
- ✳ 大通りの車の音があるので学校の音は気にならない。 (西側)
- ✳ 学校の音を聞くのは楽しくかえって元気づけられるが、最近聞こえなくなって寂しい。 (東側/南側)
- ✳ 住民の立場やその時の体調によって音の感じ方は違う。 (北側)
- ✳ 単純に音が気になるかどうかという問題ではない。 (北側)

## 9, 第2回意見交換会実施内容

---

(ア) 日時 平成29年3月19日(日) 13:30 ~ 15:30

---

### (イ) 実行委員会参加団体

- ・生徒会本部 ・新聞委員会 ・放送委員会 ・とんぼ祭実行委員会
  - ・合同協議会 (男女バレーボール・バスケットボール部/ソフトテニス部/弓道部/吹奏楽部/軽音楽部/サッカー部/ダブルダッチ部)
- 

### (ウ) 地域参加者

- ・ 太田宗彦さん (蟻ヶ崎北町会長)
- ・ 高簾基治さん (蟻ヶ崎深志ヶ丘町会長)
- ・ 曾根原力さん (沢村町会長)
- ・ 古市昭太郎さん (蟻ヶ崎西町会長)
- ・ 上原偉敏さん (蟻ヶ崎北)
- ・ 忠地和夫さん (蟻ヶ崎北)
- ・ 松岡文子さん (蟻ヶ崎深志ヶ丘)
- ・ 池田文子さん (蟻ヶ崎西)

計8名

---

### (エ) 会議でいただいたご意見

#### Ⅰ 吹奏楽部からの提案

今回の意見交換会では、吹奏楽部が今まで自粛していた「屋外での音出し」を再開するため、練習室の外、図書館横、中庭の3箇所です音を出し、音の大きさや響き方を会議に参加した地域の方に確認していただいた。吹奏楽部では、この実験と4月中のお知らせをもって、4月下旬から屋外での練習を再開し、一定期間をおいてから地域の皆さんにご意見をうかがい、更に続けるか否かを考えたいとした。

#### 吹奏楽部の実地実験についてのご意見

- ✳ 音の大きさそのものよりも、音が気になるかどうかという意識の問題ではないか。
- ✳ 中庭のように建物と建物の中で練習すれば音は全く気にならなかった。
- ✳ 道路の音があるため楽器の音は気にならなかった。
- ✳ 音の大きさは室内で練習している時と同じように聞こえた。
- ✳ あの程度の音の大きさならば屋外での音出しを遠慮することはないと思う。



- ✳ 狭い室内で多くの方が練習をしている現状では、自分が出した音を聞くことができずにかわいそうだ。
- ✳ 消音のことは気にせず、きれいな音を響かせて欲しい。

### 吹奏楽の実験以外のご意見

- ✳ 学生と地域の集まりは今後もあった方が良くと思う。
- ✳ 現在の状態（意見交換会）では決定をすることができないため、意見を言って終わりになってしまう。会議で話し合ったことを形にすることが必要。
- ✳ 住民として生徒の声に対応すべき。なにか規約を作っていくのはどうか。
- ✳ 地域と生徒との間で協議・検討機関を今後に残すのはどうか。
- ✳ 今まで町会として動いたことがない。この意見交換会を期に、町会として働きかけをしていくのはどうか。
- ✳ 町会で話し合い、賛同を得られれば協議会を作ることを目的に動いていきたい。

## 10, 2回の意見交換会の成果と課題

---

### (ア) 成果

- 地域の方と生徒のお互いの理解が進んだ。
- 取り組みを通じ、地域の方からお礼や労いの言葉をかけていただけるようになった。
- 5地区の町会長さんに、このような意見交換会に賛同を得ることができた。
- 松本深志高校新聞が地域にも配られるようになった。
- 地域とのチャンネルができた。
- 地域・学校・生徒の三者が関わる新しい組織の検討を地域の方から投げかけていただいた。

### (イ) 課題

- クレームを寄せる方は学校そのものに疑問を持っているように感じられた。
- 放送委員会のスピーカー、松本蟻ヶ崎高校の窓の板張りなど、消音対策には防災の面で別の問題が起きてしまう。この点のバランスをとることが必要である。
- 意見交換会の取り組みの中で、自転車の乗車マナー、加害者としての自転車運転者についてご意見をいただくこともあり、交通マナー問題解決は大きな課題である。
- 地域から、学校・生徒を含めた新しい組織の検討を投げかけていただいたため、それに応えることが必要だと痛感した。

## 「学校と音について」意見交換会 スケジュール

| 月     | 日  | 活 動 内 容   |
|-------|----|---|
| 10    | 14 | ・ 校長先生、教頭先生に開催について相談・検討（顧問）   |
|       | 26 | ・ 職員会で、意見交換会開催について提案  |
|       | 28 | ・ 蟻ヶ崎北、蟻ヶ崎深志ヶ丘、沢村、白金の町会長へ実施の提案・相談   |
| 11    | 1  | ・ 実行委員長、生徒会長、合同協議会長、新聞委員長で実行委員会について打ち合わせ  |
|       | 2  | ・ 第1回意見交換会実行委員会（実行委員会発足）  |
|       | 3  | ・ 配布資料（意見交換会の日程についてのお知らせ）作成   |
|       | 7  | ・ 配付資料 教頭先生に確認  |
|       | 9  | ・ 第2回意見交換会実行委員会 近隣140軒に直接訪問する旨をチラシにしポスト投函   |
|       | 11 | ・ 第3回意見交換会実行委員会（直接訪問の打ち合わせ）<br>・ 近隣140軒へ直接訪問（開催説明とチラシ配布）                                  |
|       | 中旬 | ・ 当日配布資料作成・印刷   |
|       | 19 | ・ 第4回意見交換会実行委員会（会の進行についてリハーサルを行う）   |
|       | 20 | <b>第1回「学校と音について意見交換会」 当日</b>  |
|       | 下旬 | ・ 配布書（意見交換会の成果・まとめ）作成   |
| 12    | 7  | ・ 近隣140軒へ報告書配布/3地区の町会長に依頼し回覧板を通じて配布していただく   |
| 平成29年 |    |   |
| 1     | 下旬 | ・ 実行委員長、生徒会長、合同協議会長、新聞委員長で「第2回意見交換会」の実行委員会について打ち合わせ                                       |
| 2     | 3  | ・ 第1回意見交換会実行委員会（実行委員会 発足）   |
|       | 上旬 | ・ 蟻ヶ崎北、蟻ヶ崎深志ヶ丘、沢村、蟻ヶ崎東、蟻ヶ崎西の町会長へ「第2回意見交換会」実施の提案・相談<br>・ 配布資料（意見交換会の日程についてのお知らせ）作成 教頭先生に確認 |
|       | 15 | ・ 第2回意見交換会実行委員会 近隣140軒に直接訪問する旨をチラシにしポスト投函   |
|       | 17 | ・ 第3回意見交換会実行委員会（直接訪問の打ち合わせ）<br>・ 近隣140軒へ直接訪問（開催説明と資料配布） / アンケート実施                         |
|       | 下旬 | ・ 5地区の町会に回覧板を通じ、意見交換会の開催を知らせていただく   |
| 3     | 上旬 | ・ 当日配布資料作成・印刷   |
|       | 17 | ・ 第4回意見交換会実行委員会（会の進行についてリハーサルを行う）   |
|       | 19 | <b>第2回「学校と音について意見交換会」 当日</b>  |
|       | 下旬 | ・ 配布書（意見交換会の成果・まとめ）作成   |
| 4     | 2  | ・ 近隣140軒へ報告書配布/5地区の町会長に依頼し回覧板を通じて配布していただく   |